

# Bulletin

全国ケーブルトラフ協会

会報

2006年第13号

## Contents

P1	..... Wブロック・駐輪ブロック事業報告／ホームページ開設のご案内
P2	..... おもしろ相続税 PART4 ／賛助会員Information
P3	..... 会員Information
P4	..... 詩

## Wブロック・駐輪ブロック事業報告

Wブロックにつきましては、即脱式の型枠を一台購入して(株)タマコンさんで製作を始めました、(株)タマコンの竹村社長も最初は試行錯誤で苦勞されておられました、漸く強度も外観も何とか満足のいく物が製品出来るようになりました。

販売のほうも岩隈顧問の日本工業大学のほうで設計におりこみ、伊草建設(株)で施工する事に決まりましたが、工事が伸びておりますので次号の会報誌では納入報告ができることと思います。

駐輪ブロックは製作できる状況(多少製作)になっておりますので、物件が出次第(問合せは有りました)製作にかかることが出来ます。

製造原価、販売価格は一応設定して活動を始めましたが5月に行われます総会で会員の皆様に色々と相談し、ご意見を伺い、これからの活動の方向を決めて行きたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

## ホームページ開設のご案内

このたび平成18年3月に協会のホームページが開設され下記アドレスからアクセスが可能となりましたのでご報告します。今後、皆様にご活用いただける有益なホームページとするべく、更なる内容の充実を目指していきたく思っておりますので、ご意見ご要望などお寄せいただければ幸いです。作成にあたりましては協会総務委員会の方々・タナカ印刷様にご協力をいただき大変有難うございました。

アドレス <http://www.npojcta.or.jp/>

Copyright (c) 2006 Japan Cable Tragh Association. Allright reserved

## おもしろ相続税 PART4

### ●熟年離婚？

来年は団塊の世代が大量に退職する年とか。夫の年金の半分がもらえるという年金法の改正で、この年を待って離婚しようとしてぐすねを引いている妻たち。離婚で財産分与を迫られる夫。来年はどんな年になるのでしょうか。

実生活はともかくとして、これを税金的に見るとどうでしょう。

ある有名な事件がありました。夫が離婚の財産分与として奥さんに不動産をあげたのですが、その際奥さんにかかる贈与税を心配していました。ところが実際には、奥さんではなく夫のほうに譲渡所得税がかかってきたのです。時価課税となりとんでもない額の税金となりました。裁判で、最初から譲渡所得税がかかるかわかっていれば財産分与をしなかったと夫が主張し、この財産分与は取り消されました。

ところで一般の常識から言うと、財産をもらったほうが贈与税の支払をするように思われますが、離婚の場合税の考え方はちがいます。財産分与として不動産を譲渡することで分与義務の消滅という経済的利益を夫が得たとして夫の譲渡と捉えます。ですから冒頭のような問題が生じるのです。

財産分与と似たようなものに結婚20年以上の夫婦で、住居用財産又はその取得資金の贈与を行った場合には、2千万円までは非課税の規定があります。これは贈与税の規定です。これまでの財産形成に共に力を尽くしたという意味でしょう。贈与税は相続税の一種ですから、土地の評価も路線価です。そのため2千万円といっても、路線価による2千万円ですから、もし土地だけで考えるとすると、1平米40万円の路線価の土地ですと、50平米（約15坪）まで非課税で相手に贈与することが出来ます。但しきちんと法律上婚姻関係がなければなりません。ですから離婚してから財産を分与するより、婚姻中にご苦労様と贈与すれば、2千万円までなら課税されなくて済みます。普段から相手を思いやり、ありがとうという気持ちから贈与するのであれば、実際離婚そのものもおこらなくてすむかもしれませんね。

世の夫の皆さんどう思いますか？

税理士 安藤 澄子

## 賛助会員 information

弊社は昭和61年に創業し、関東を中心にコンクリート製品製造に係わるコンサルティングを行ないながら工場様と共に歩んで参りました。コンクリート事業部の内容としましては、化学品の販売、製品製造設備・装置・機器の販売、JISの指導援助や新製品開発など多岐にわたっており、総合的なサポートを目指しております。近年は急速なデジタル化の波に対応すべく、電子カタログの制作やホームページ等Webサイトの運営代行なども行なっております。

弊社が運営支援し大変ご好評頂いておりますコンプロネット（製品工場向けサイト<http://www.conpro.net>）は、コンクリート業界に止まらず、広く一般の方からもご覧になって頂き、多い日には1日で1万件のアクセス数にまで及んでおり、建設業界で参考になるサイトとして日経コンストラクションにも紹介されました。また、サイト内で格安にてコンクリート試験機・建設用テープ・コンクリート関連書籍等もご紹介させて頂いております。何か皆様のお役に立てればと思い運営しておりますので、ご覧になって頂ければ幸いです。御座います。

**SELTEC** <http://www.seltec.co.jp>

**セルテック** 株式会社

〒183-0056

東京都府中市寿町1-4-3-ロイヤルプラザ4F

TEL: 042-365-8717 FAX: 042-365-8719

E-mail: info@seltec.co.jp

## 会員Information

### 日の出コンクリート株式会社 高橋 克己

当社は東京都西多摩郡日の出町にあります。住所は東京都ですがとても東京とは思えないほど長閑なところで、窓外には奥多摩の山々が広がっています。しかしこんな里山の風景も近年はかなり変化してきました。

創業は昭和38年東京オリンピック開催の年で、そのころ付近は民家さえもほとんど無く風が吹けばセメント粉が舞い上がるほどの吹

きさらし状態でした。その後環境にも配慮すべくいろいろな設備を整え、また十数年前には会社一帯が日の出工業団地として整備されてあたりの環境は一変しました。そして一昨年には圏央道日の出インターが開通して周辺には工場だけでなく商業施設なども少しずつ出来はじめ、さらに来年には大型ショッピングセンター開店の計画も伝えられています。現在はトラックやダンプの通行が多い道もいずれは家族連れの車が多くなると思われます。当社としてもますます環境に配慮した事業展開が求められることになりそうです。

ところで日の出町には、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、まもなく操業を開始するエコセメントの工場があります。エコセメントとは、都市ごみ焼却灰に石灰石を加えたものをロータリーキルンという1,400度の高温の炉に投入・焼成して出来上がるもので、千葉県市原市に稼動第1号の工場があります。市原の工場が150万人分の焼却灰を対象にしているのに対し日の出では多摩地域25市1町約380万人を対象にしておりかなり規模の大きなものになっています。工場は以前から稼動している二ツ塚廃棄物広域処分場内にあり、そこに持ち込まれる焼却灰が主な原料となります。とはいえわが国の普通セメントの年間生産量が約7,000万トンとするとその割合はほんのわずかに過ぎません。しかし大量に排出される都市ごみの再資源化・循環型社会の構築という観点から見ればかなり大きな意味を持つものと考えられます。

コンクリートは耐久性・強度に優れた材料で、いままで様々なところで社会基盤整備のために使われてきました。しかし現在では環境破壊の象徴のように言われることも多くあり少し残念な気がします。

時代によって造る製品は変化していきますが、その時々々の需要に合った製品をより良い品質で提供することによってまだまだ社会の役に立てると信じて今後も頑張っていきたいと思いません。



写真は工場から見た圏央道です



## すみれの花咲く頃

白井 鐵造 作詞  
デーレ 作曲

春 すみれ咲き 春を告げる 春 何故人は 汝を待つ  
楽しく 悩ましき 春の夢 甘き恋 人の心 酔わす  
そは汝 すみれ咲く春

\*すみれの花 咲く頃 初めて君を 知りぬ  
君を想い 日毎夜毎 悩みし あの日の頃  
すみれの花 咲く頃 今も 心震るう  
忘れな君 我等の恋 すみれの花 咲く頃

花 匂い咲き 人の心 甘く薫り 小鳥の歌に  
心躍り 君と共に 恋を歌う 春 されど恋 そはしほむ花  
春と共に 逝く

\* (繰り返し)

昭和5年

**【解説】** 私は春児の故か、一年中で一番この季節が好きである。

「万物萌え出す春」はあらゆる生物が活動を始め、花咲き競い、鳥高らかに謳う。毎年繰り返すことなのに全てが新鮮で若々しい。

若い女性の集団である宝塚歌劇団で歌い継がれるのも、至極もっともだと思う。研鑽を重ねて新しい人生に立ち向かって行く若い季節、希望と感動に溢れた季節、誰もが通ろうとし、現に通いつつあり、通って来た時節である。

この時期に一生のあらかたが決まってしまうと云っても良いだろう。

ここで得た喜怒哀楽は後々に長く影響を及ぼす。ここで得た苦しみは後々のこやしになり、喜びは思い出としてその人の財産になる。

ここで得た傷は大きな影響があるけれども、乗り越えることによりその人のパワーになる。それほどにこの時期の影響は大きい。

現実がそうである以上に、初々しい若い魂がどんな色に染まって行くか、大切な時期なのである。人は何の為に生まれ、どう生きるべきかを考え定める時期でもある。ここで「楽しければ良い」などという安易な人生観を持ってしまうと、その魂は「人間としての道」を誤ってしまう。

既に「春」を越えて夏・秋にさしかかっている先輩諸君は、そのことを伝えて行く義務があるのではないだろうか？ 世代の断絶を超えて、そうしないと、美しい純な魂が虫食いだらけの見る価値の無い「花」になってしまうだろう。